

令和7年度 浅羽学園経営構想

- 1 市の目指す子供像 「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す 15 歳」
15 歳の姿を幼小中が共有して、一貫した指導を行うことで、健やかに育成する。
- 2 学園教育目標 「こころざしをもち、共によりよく生き抜くたくましい子」の育成
・[こころざしをもち(自立力)]+[共によりよく(社会力)]→[生き抜くたくましい子]
- 3 取組の重点

(0) 15 歳の姿について

- ・全体的には、生徒は素直で落ち着いた学校生活を送ることができる。反面、主体的に考え行動したり自己を表現したりすることに苦手な傾向が見られる。
→主体的に考え判断し、学習や諸活動に粘り強く取り組む生徒にしたい。
- ・学習に対して困り感があったり、人間関係に悩みをもったりする生徒も多い。
→自分に自信をもち、自他を大切に協働できる生徒にしたい。



学園教育目標を達成するための 6 つの取組

- (1) 「学園教育目標＝学校教育目標」とし、校区の小中学校で教育目標を揃える。
 - ・15 歳の姿を学園で共有し、系統的かつ効果的に子供の力を育成する。
 - ・各校の特色を活かすために、各校で重点目標を設定して学校運営を推進する。
- (2) 浅羽学園の 6 つの目指す姿から、次の 2 点を焦点化して取り組む。
 - ・「自ら求めて学び続ける子」…こころざしをもち、主体的に取り組む姿
 - ・「お互いの幸せを願う子」…他者を認め、共によりよく協働する姿
- (3) 「魅力ある学校・学園づくり」にむけてプロセスを重視する「任せて認める」指導、ポジティブな行動支援（P B S）を学園共通で指導に取り入れる。
 - ・「居場所づくり」「絆づくり」に力点を置き、自己有用感と規範意識の醸成を図る。
 - ・P B S により「わかる」「できる」「楽しい」を実感する授業や活動の充実を図る。
 - ※ポジティブな行動支援（P B S）とは、行動目標を設定し、望ましい表れを積極的に褒めることにより、相対的に望ましくない表れを減らしていく支援のこと
- (4) インクルーシブ教育の充実
 - ・各校による特別支援教育、日本語指導の充実
 - ・専門部（特別支援教育部、日本語指導部）による情報共有
- (5) 園中の相互理解と連携強化を推進する。
 - ・【園小中】園・校の活動や学びを参観し合うことで一貫教育の理解と一体感を高める。
 - ・【園小中】交流活動やボランティア活動をし合うことで自己有用感の醸成をはかる。
 - ・【園小】架け橋期では園・校での積極的な交流活動、小 1 担任と年長担任による情報共有により円滑な接続を図る。
- (6) 家庭・地域への積極的な情報発信
 - ・保護者と一緒に子供の成長（主体性・規範意識・思考力）を支援するために、各園、校の取組を積極的に家庭に伝える。